

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第139号(2018.10.1)
事務局 川西地区自主防災会

地域防災力の向上に向けて

平成30年度香川県知事感謝状受賞
松崎連合防災会 会長 田尾雄彦

松崎地区の概要

三豊市詫間町松崎は、JR詫間駅を中心に11自治会で構成され、人口は3,075名、世帯数は1,290世帯(H30年7月1日現在)で、保育所、幼稚園、小学校が有ります。

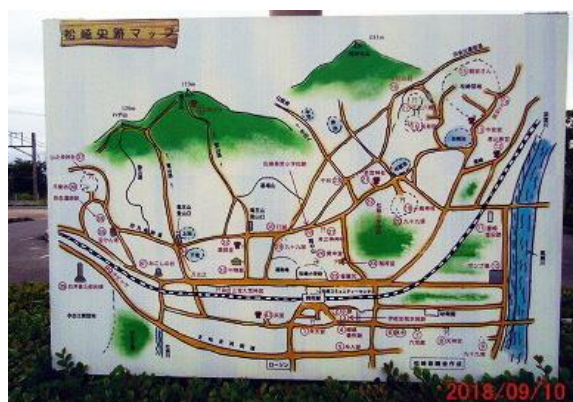
明治33年頃から塩田が造られ、長きに亘り製塩が続けられましたが、昭和36年頃には全て廃止され、その跡地は埋め立てられ、住宅地となりました。

松崎地区には40数か所の史跡が有り、最近「松崎史跡マップ」が完成し、詫間駅前には史跡マップの立て看板が設置されています。この史跡マップを利用して健康ウォーキング等も行われています。

地域挙げてのイベントは、「松崎地区運動会」と「小鳥神社例大祭」が2大イベントです。どちらも松崎地域の多くの人々が参加し、盛大に開催されています。



小鳥神社例大祭



松崎史跡マップ

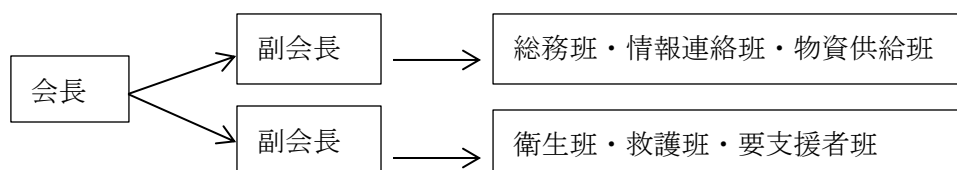
松崎連合防災会の組織と取り組み

自主防災会設置は、友人との世間話の中から生まれたものでした。阪神・淡路大震災で避難を経験した友人が「避難所に大勢の人が避難して来た時に、非常に混乱していたので、この地区でも、もしもの場合を考えて検討しておく必要がある」とよく言っていました。

松崎地区では大きな災害など、経験した事がないので、誰も他県の災害を身近なものとは考えません。しかし、社会福祉協議会等では、防災講演会などが度々開催され、友人の話を真剣に考える様になりました。

まず、防災会設置に向けての考えとして、避難所に大勢の人が避難して来た時に、混乱を避ける為には、どの様な取り組みをしなければならないかを、第一の課題としました。

組織は



とし、副会長の基に、「総務班、情報連絡班、物資供給班、衛生班、救護班、要支援者班」の6つの班を編成しました。そして各班の役割（活動内容）を明確にしました。

班名 (責任者)	班員	役割 (活動内容)
総務班 (水出自治会長) (浜北自治会長)	各自治会より5名 計10名	避難所運営の調整、防火・防犯、安全点検の巡回 災害対策本部との調整、地域との連携 ボランティアの受け入れ、居住区の調整・決定
情報連絡班 (北浦自治会長) (浜中自治会長)	各自治会より5名 計10名	避難者名簿の整理・管理、安否情報等の避難者への連絡・広報、情報収集及び提供
物資供給班 (松崎東自治会長) (美浜自治会長) (女性部長)	各自治会より5名 女性部より13名 計23名	給食活動（炊き出し、救援物資の配給、調達） 飲料水、救援物資の受け入れ・管理
衛生班 (松崎西自治会長) (浜西自治会長)	各自治会より5名 計10名	仮設トイレの設置・管理 ゴミの分別・集積及び衛生管理 病気の予防、保健衛生、消毒に関する事
救護班 (団地自治会長) (新浜西自治会長)	各自治会より5名 計10名	医療救援活動の支援（応急手当） 負傷者等の救援、避難者の健康管理 医療機関との連絡調整
要支援者班 (民生委員) (須花自治会長)	民生委員7名 自治会より5名 計12名	要支援者の保護 市・社協・医療機関との連絡調整 児童支援・学校との連携
班長、副班長13名	班員65名	

上記の様な各班の役割の概要を決め、H25年2月に第1回防災・避難訓練を実施しました。初めての為、十分な計画も立てずに実施しましたが、各班役割の中で何か一つ出来れば良いとの考えで、各班で簡単な取り組みに終わりました。

第2回（H26年11月）、第3回（H27年11月）と訓練を重ねて行くうちに、各班で複数の取り組みが出来る様になりました。

H27年度に三豊市で「避難所管理運営標準マニュアル」が作成されました。この機会に松崎連合防災会も6班の運営マニュアルの作成を検討する事になり、今までの訓練をどの様に生かすかが課題でした。

三豊市の標準マニュアルは細部に亘り、我々の能力では実行出来ないとの意見が多く出た為、実現可能な範囲でのマニュアルを作ることになりました。

マニュアル作成に当たり工夫した事は、それまでに訓練して来た6班の活動を活かす事でした。その結果、マニュアルは充分ではありませんが、松崎連合防災会、三豊市危機管理課、施設管理者（学校）の三者協議で最終決定をし「避難所運営マニュアル」の初版が完成しました。

訓練実施に当たって

三者協議で決定した「避難所運営マニュアル」を役員会（班長、副班長）で内容を説明し、了解を得て全体会（班員を含む）で最終決定をしました。

マニュアルに沿った訓練実地の前には、班別に活動内容の研修会を実施し、この研修会で訓練内容を確認しました。

実施に当たっては、各自治会より10数名の模擬避難者（計130名）の協力を得て初めて「避難所運営マニュアル」に沿った訓練を実施しました。訓練の結果は、各班の準備不足、情報の連絡方法と指示の不徹底、放送設備の不備等沢山の意見が有り、今後の課題となりました。

以後、第5回（H28年12月）第6回（H29年12月）と松崎全住民を対象に防災・避難訓練を実施し、回を重ねる毎に少しずつ進歩している事を感じる様になりました。



避難者受付



傷病者搬送



保育所避難支援



AED操作訓



バケツリレー



応急手当



簡易担架作り



避難者カードパソコン入力



炊き出し



消火器訓練



炊き出しの試食



高齢者の避難

今後の課題として

防災・避難訓練では殆ど健常者の参加にとどまり、支援を要する高齢者や障害者の参加をどのように促すか、又、隣近所の協力体制を築くことが重要な課題です。

今月は平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰についてご報告します。

平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

防災活動の中で最高賞である内閣総理大臣表彰を、かがわ自主ぼう連絡協議会が受賞いたしました。

平成19年3月に設立以来、香川県内の「地域」や「学校」を対象に防災の研修・訓練を重ね、その回数は約500回を数えます。更には啓発活動を広めようと、毎月「防災・減災の輪」を発行し、発行回数も約140回をむかえる事になりました。又、被災地におもむき支援活動を実践し、その活動で得たノウハウを広く展開させたことなどが評価され、このたびの受賞になりました。

この賞をいただくまでに総務大臣表彰2回、内閣府防災担当大臣表彰1回、更にジャパン・レジリエンス・アワード強靱化大

賞の最優秀賞受賞

の成果があつての表彰であつたと拝察しているところです。

表彰式は、去る9月18日（火）10：15より首相官邸でとり行なわれ、安部首相をはじめ、国土交通、防衛、総務、内閣府、防災担当大臣と消防庁長官、海上保安庁長官、さらに関係省庁の次官出席の中、首相挨拶の後、団体代表、個人代表に表彰状が首相から授与されました。



その後、首相、大臣を囲んでの記念撮影が行なわれ第 1 部である表彰式典が終了。

10 時 45 分から第 2 部、交流会が小ホールにて行なわれ、菅官房長官をはじめ関係大臣の挨拶の後、小此木防災担当大臣の乾杯ご発声によって、交流会がスタート。

この会場で個人の部で内閣総理大臣表彰を受賞した香川大学特任教授の金田先生と名刺交換し、お互いにエールの交換を行なった。



この会場の中で菅官房長官並びに小此木防災担当大臣と名刺交換させていただき、少しお話しする機会が得られ岡山県真備町への支援活動のご報告、大変ご苦勞であったと両手で握手をしていただき、参加された皆さんによりしくお伝え下さいと丁寧なごあいさつを受けました。

又、東京から帰ると、浜田知事さんから心暖まるご祝電を頂戴しておりましたので関係者の皆さんにご報告しておきます。



さて、このような立派な賞をいただくと、これを機に活動を小さく、更には店じまいを考えるかたもいらっしゃるようですが、私達かがわ自主ぼう連絡協議会はこれから更に研究と努力を重ね香川県内の地域防災力強化にまい進していきたいと思っておりますので香川県をはじめ多くの関係者の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

編集後記

今月の防災減災の輪は、松崎連合防災会 会長 田尾様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。